

会 議 録

[所管課 水谷公民館]

会議の名称	平成30年度第1回水谷地区公民館運営審議会会議録
開催日時	平成30年9月5日（水） 午後4時15分～午後6時
開催場所	水谷公民館 和室2
出席者	〔委員〕 関根 健一 委員、中島 秀行 委員 加藤みはる 委員、小森 和雄 委員 〔公民館（事務局）〕 和田 晋治 館長、高見 淳也 副館長
会議次第	【報告・連絡事項】 （1）学級講座等開催事業等に関して （2）施設維持管理事業に関して 【協議事項】（意見交換） （1）水谷公民館の事業展開について （主要事業の説明と意見交換）
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・水谷公民館実施事業のチラシ ・ // 年間事業計画および補足説明資料
会 議 内 容	
<p>*あいさつ（館長、水谷地区公民館運営審議会委員代表）</p> <p>*自己紹介</p> <p>*会議の進め方について ⇒事務局から説明。地区会議は年3回程度予定。今年度は今回のほかに12月と3月頃に開催予定。内容として内容は、2回目は水谷公民館の課題となる事業について委員から意見を伺い、事業に反映させ、3回目の3月の会議においては事業評価を実施する予定である。</p> <p>*議題</p> <p>1 報告・連絡事項</p> <p>（1）学級講座等開催事業等に関して ⇒下記実施事業について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館カフェ（委員から報告） ・水谷青空学校 ・みずほ台小区青空学校 ・水谷文化祭（進捗状況） <p>（2）施設維持管理事業に関して ⇒下記内容について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的ホール照明のLED化 ・冷水機の設置 <p>【質疑等】</p> <p>委 員：公民館カフェについてのねらいは。</p> <p>委 員：人がつながっていくということである。</p>	

委員：どのような層の方がきているのか。

委員：当日の公民館利用者が多いが、情報を得てこれを目当てにきた方もいる。また、公民館の窓口に図書館の本を受取りに来た方もお越しいただき、新たな層もあった。そのような人がつながり、地域について語ってもらえればと考える。

委員：今後の展開として例えばブラインドブックマーケットなど本を活用した展開も行えればと考える。

【協議事項】

(1) 水谷公民館の事業展開について（説明と意見交換）

事務局：委員改選後初めての会議なので、まずは水谷公民館の事業の概略について、説明させていただき、そこから各委員から質疑や課題となる点、思いなどを自由に話していただき、今後の会議等で議論する内容等を絞っていききたい。

⇒主な事業について説明。

（サロン事業、水谷小郷土資料室の活用、みずほ中央公園交流施設の活用等）

委員：水谷小学校郷土資料室の活用の経過は

事務局：3年前に当時の校長から、教育課程が変わるなどして、授業での使用機会が減ってきていることもあり、地域などでも活用できればという提案から始まったものである。これまでに回想法講座や俳句講座のほか公民館でのサロン活動の中で見学の機会を設けたりしている。

委員：回想法の講座に参加させてもらったが、良い取り組みだったと感じている。

委員：郷土資料室の展示内容と現在の子どもや親の世代とのギャップが大きくなってきていて、事業での活用が難しい面もあるのではと感じる。

委員：みずほ中央公園交流施設の活用について、パークヨガ講座はどのような状況だったか。

事務局：人気があり多くの参加者があった。子育て中のお母さんなど若い世代の参加も多くあった。

委員：新しい施設でもあり、公園と併設という特徴もある。新たに若い方も事業に参加する事業展開も可能と思うので、積極的に展開してほしい。

委員：若い人がぱっと目を引くような講座は、新た利用者を増やすためには必要と考える。

委員：そもそも若い人は公民館の使い方というものを知らないのでは。最近、予約システムを導入したが、団体登録をして、申請するという流れで、煩わしさを感じる人が多いのでは。公民館も若い人に使ってもらおうという発想までいっていないのでは。

委員：自身が若いころは青年活動が盛んで、そこから仲間づくり、交流が広がったが現在は組織に縛られない活動形態が中心になっているのでは。

委員：若い人は、見た目やカッコよさなどに目が行く。そのような点で、公民館は魅力に欠けるのでは。イメージ戦略的なものが必要なのは。

委員：所沢市では県所有の旧青年の家が市に移管されコミュニティセンターになったが、比較的若い人も利用しているようだ。また狭山市立中央公民館が駅前に新たに設立されたが、ロビースペースに中高生が自習などにきているようだ。

委員：勉強するのも家というより例えばスタバなどでやるというケースが多くなっているのでは。

委員：人が集まれるというフィールドが必要で、そこから仲間づくりにつながっていくのではと考える。

委員：発想が昭和の枠に留まっていて、そこに若い人に合わせてもらおうというのは難しいと思う。運営にかかわる人たちも、今の世代に合う人でなければと思う。

委員：富士見市の現在の公民館の建物は40年近く経過するが、その当時の方が今も中心となっているケースもある。新陳代謝が必要と感じる。

委員：そのような点で、公民館カフェは突破口になる可能性があるのでは。

事務局：公民館だよりについて、過日の全体会議でご意見があるようだったが。

委員：南畑公民館だよりは他の公民館だよりと違い、地域の顔が見えるアットホームな雰囲気がある。また、地域の方が歴史などに関する連載もあり特徴的だと思う。

事務局：歴史ある地域で、住民性も変わらないことが大きいのでは。ただ南畑地域もこの数年、新たな若い住民が増えきている。

委員：公民館だよりを若い人たちだけで作ってみれば新たな情報発信になるのでは。

事務局：水谷公民館では、この2～3年で主催事業ではないが、子ども食堂が開催されたり、学習支援事業が開催されるなどして、多くの小中学生が公民館の来ている。現在は会場として来ている状況だが、公民館としても一つのチャンスととらえ、子どもや若い人たちに公民館にかかわる機会を作ればと考える。

委員：子どもフェスティバルで子どもフリーマーケットを行っているが、例えば公民館で、ものづくりをしているお母さんや若い方を募ってマーケットを開いてみるのも、若い人たちが集まるのでは。また水谷文化祭でこのようなスペースを設けてみるのも面白いのでは。いずれにしても様々な事業について、義務的に取り組んでいては若い人たちは集まらない。発想の転換が必要では。

事務局：本日は新しい任期後初めての会議でもあり、あえてテーマを設けず自由に意見をいただいたが、公民館にいかに関わりを呼び込むかという点の話が中心になったと思う。今後も議論を積み重ね、事業展開に活かしていければと思う。

*その他 （9月27日（木）開催の全体会議の出欠確認）

*閉会